

Ⅱ. 研究開発単位Ⅰ：中学課題探究Ⅰ「総合人間科」

doi: 10.18999/bulsea.65.105

第1章

概要

三小田 博 昭

(1) 目的

身近な疑問から地球的規模で多岐にわたる内容を中学段階で取り扱うことで、探究する心を育成し、高校で行う仮説検証型課題研究「課題探究Ⅱ」に繋げる。中学3年間の調べ学習を主体とした研究から、仮説検証を主体とした探究へと段階的に移行することにより、探究が着実な成果をあげる。個人研究とグループ研究の両方を経験することで、高校における研究体制への素地を築く。

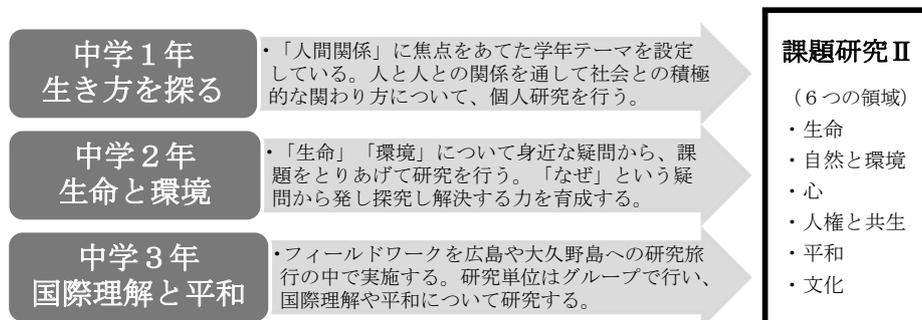
(2) 期待される効果

1年で1つの課題に取り組むことで、興味関心を広く持ち、調べ方・まとめ方を身につけていく。このステップを通して調べ学習から探究への深化ができる。「課題探究Ⅱ」に繋がる課題を幅広く研究の対象として扱うため、高校1年で探究テーマを的確に短時間で設定するこ

とができる。また、専門家を訪問して聞き取り調査を行う活動全般を通して、効果的な調査研究方法や行動規範を中学から身につけ、社会との密接な関係を意識した学習を進めることができる。

(3) 内容

学年ごとに大テーマ(中学1年生「生き方を探る」、中学2年生「生命と環境」中学3年生「国際理解と平和」)を設定する。中1「生き方を探る」では、将来のキャリアパスに繋がる研究テーマを設定し、興味や関心がある分野を広くとらえ課題研究の基礎をつくる。中2「生命と環境」では、「課題探究Ⅱ」の生命/自然と環境/心の各分野に繋がる基礎的な研究を実践する。中3「国際理解と平和」では、「課題探究Ⅱ」の人権と共生/平和/文化の各分野に繋がる基礎的な研究を実践する。



(4) 指導体制

中学1年～中学3年それぞれの学年に担当された全教員が関わる。各学年では中学課題探究Ⅰ「総合人間科」を中心的に行う責任教員が中心となり指導計画や実施計画を立案する。「総合人間科」は隔週2時間連続で行われる。研究は、4月に行われる全体オリエンテーションで始まり、学年の途中で中間研究報告会が行われる。そして2月を中心に研究成果発表会が行われる。研究成果発表会は、ポスターセッション、スピーチ、パワーポイントを利用して行われる事が通常である。生徒や教員だけでなく、多くの保護者や研究協力者が、生徒の研究成果発表会に参加する。

(5) (2) 期待される効果の検証～2019年度全国学力テスト「生徒質問紙」の結果から～

「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」回答をした生徒は、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、全国平均の74.1%に対して、本校生徒は78.9%。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では、全国平均の38.8%に対して、本校生徒は55.0%。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」では、全国平均の70.3%、本校生徒は77.6%といったように、「中学課題探究Ⅰ」で目的としている「探究する心を育成」することができている。(文責 三小田博昭)